

富士紀行（1）富士学校創設記念碑碑文の紹介

富士学校の所謂パレード場の入り口に立派な警察予備隊本部長官増原恵吉氏の揮毫になる「富士学校創設記念」と銘打った記念碑が屹然としている。

背面には、趣意が明記されている。学校勤務者でもじっくり読了した者は少ないであろう。富士学校創設の経緯と当時の須走村の人々の熱意が読む者に伝わってくる。富士山、須走そして富士学校の3者の関係が如実に示されている。

碑文

戦後の数年騒然たる世情と不安定な国際情勢に対応して治安を維持し国土を保全する備えとして昭和25年8月警察予備隊が設置され、同時にその幹部を教育する修養練武の適地が物色されていた。

我が須走の地は富士山麓北東面の標高800米の緩傾斜に位置し山麓の周辺に広大な平原を控えている。従って、敷地の提供も用意であると当時高根村須走村組合村長 横山茂 渥江氏はこれを議会に諮って一決村民もあげてこの挙に協力すべき合意に達した。

たまたま地元出身の早野守太郎氏は運輸省に在職していたが、時に警察予備隊に出向中で相互の連携に労をとられた。ところが隊の再三にわたる調査の結果最適として選定された敷地は他町村並びに法人個人の所有地であったので、須走村は俄に受け入れ協力会を組織し、須走村有地を提供して交換または買収する交渉に当たった。

予定地の全域を村有地として移管を完了するまで全員は日夜奔走し、その労費は多大であった。この時買収した私有地は20名分27万4千3百80平方米交換によるもの4者分67万1千744平方米その交換比率は平均147パーセントであったので、このため提供した村有地は97万1千7百35平方米なお立木6百95立方メートルをも添え、かくて学校敷地79万3千3百88平方米を確保道路その他百52万6百61平方米を充てた

昭和27年7月7日警察予備隊招聘に関する誓約書は敷地を第一として射撃場、電力、引き込み水道設備、構外排水、住宅、道路、Telの協力条件の8項目にわたった。これに対して、同月11日警察予備隊本部長官増原恵吉氏から当村に施設を設置する旨の通知が届けられ、ここに協力会は所期の目的を達し、村民一同喜びを等しくした。

建設は同年11月に起工し29年6月に落成して堂々と高層の美を誇るに至り、同年9月11日には輝かしく富士学校開校式が挙行された。

この間に村は先の誓約書に基づく諸工事を完了すると共に小中学校の移増設、村立診療所、警部補派出所、道路の新設等諸般の事業を遂行した。

かつて戸数百戸人工5百を出ることのなかった富士登山東口の一寒村は以来年を追って開発し、31年9月には小山町と合併して今は2千4百所帯5千4百人を数えるに至った。一方、警察予備隊は、27年10月に改組29年7月から自衛隊として発足しわが町は富士学校と共に歩を共にしてきた

ここに先人の明を偲びつつ誘致の由来を記し富士学校創設を永く記念する。

昭和50年8月3日

富士学校創設記念碑建設委員

村議会議長を委員長とする20名 (彰徳山林会)